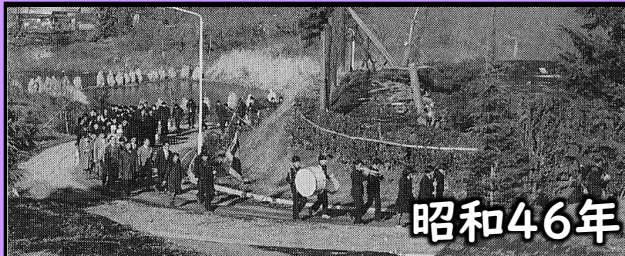




学校環境緑化の日

「名久井農業高校」といえば「**緑育心**」



昭和46年



学級分会活動



現在



校内の環境整備



昭和46年、本校は現在の高台へ校舎を移転した。移転直後の敷地は、造成工事の影響で山肌が削り取られ、砂埃が舞う荒涼とした状態にあった。こうした環境を改善するため、本校は「学校緑化十カ年計画」を策定。生徒、教員、地域住民が一体となり、長期的な視点で緑化活動に取り組んだ。地道な努力はやがて実を結び、昭和56年には全日本学校環境緑化コンクールで特選を受賞。さらに昭和60年には、緑化推進運動の功績が認められ、内閣総理大臣賞を受賞するに至った。これらの栄誉を記念して、生徒玄関脇には石碑が建立されている。「緑育心」と刻まれたその言葉には、「緑は心育てる」という思いが込められており、本校の歩みと理念を今に伝えている。



地区分会活動



昭和・平成・令和と催される**54**年目の伝統行事



昭和48年以降、本校の「緑育心」は校内にとどまらず、校外へと広がりを見せるようになった。生徒たちは出身地区へ赴き、環境美化に取り組む「地区分会活動」を展開。これが現在に続く活動の原形となっている。さらに平成16年からは、それまで学校単独で行ってきた取り組みを発展させ、「青い森鉄道利用促進協議会」や沿線地元組織と連携。沿線のすべての各駅において、環境整備事業を一斉に実施する体制を築いた。こうした活動の広がりには、本校が培ってきた環境美化の実績が地域社会から評価され、必要とされていることの表れでもある。